

逗子だより

泉鏡花

青空文庫

よる
 夜は、はや秋の螢なるべし、風かぜに稻葉いなばのそよぐ中なかを、影かげ淡くは

らくとこぼるゝ状さまあはれなり。

つきかげ
 月影は、夕顔ゆふがほのをかしく縫すがれる四ツ目垣よめがき一重ひとへ隔へだてたる裏うらや

ま
 山の雑木ざふきの中よりさして、浴衣ゆかたの袖そでに照添てりそふも風情ふぜいなり。

やまつ
 山やま續つきに石段いしだん高く、木下こした闇やみ苔こけ蒸むしたる岡をかの上に御堂みだうあり、

くわんぜおん
 觀世音くわんぜおんおはします、寺てらの名なを觀藏院くわんざういんといふ。崖がけの下した、葎むぐ生お

ひしげ
 ひ茂りて、星影ほしかげの晝ひるも見ゆべくおどろくしければ、同どう宿しゆく

ひと
 の人ひとたち渾名あだなして龍ヶ谷りゅうたにといふ。

たながり
 店借たながりの此この住居すまひは、船越ふなこし街道かいだうより右みぎにだらくのぼりの

ところ
 處ところにあれば、櫻ヶ岡さくらをかといふべくや。

これより、「爺ぢやや茶屋ぢやや」「箱根はこね」「原口はらぐちの瀧たき」「南なん瓜くわ軒けん」

「下しも櫻山さくらやま」をへ経へて、倒さか富士さかふじ田た越こ橋はしの袂たもとを行ゆけば、直すぐにボ

ートを見み、真ま帆ほ片帆かたほを望のぞむ。

爺ぢやや茶屋ぢややは、翁おきなひとり居ゐて、焼せう酎ちう、油あぶら、蚊か遣やりの類るゐを鬻ひぐ、故ゆゑ

に云いふ。

原口はらぐちの瀧たき、いはれあり、去さんぬる八やう日か大たい雨いうの暗あん夜や、十じ時じを過すぎ

て春しゆん鴻こう子しきた來くるる、俤くまより出いづるに、顔かほの色いろ惨あはしく濡ぬれ漬ひたりて、路みち

なる大おほ瀧たき恐おそしかりきと。

翌よく日じつ、雨あめの晴はれ間まを海うみに行ゆく、箱根はこねのあななに、砂すな道みちを横よ切ぎ

りて、用よう水すゐのちよろくと蟹かにの渡わたる處ところあり。雨あめに嵩かさ増まし流ながれた

るを、平家へいけの落おち人うぢ悽あはじまき瀑たきと錯あやりまけるなり。因よりて名なづく、又また

よさめ たき
夜雨の瀧。

此瀧を過ぎて小一町、道のほとり、山の根の巖に清水滴り、

三體の地藏尊を安置して、幽徑磽たり。戯れに箱根々々

と呼びしが、人あり、櫻山に向ひ合へる池子山の奥、神武

寺の邊より、萬兩の實の房やかに附いたるを一本得て歸り

て、此草幹の高きこと一丈、蓋し百年以來のもの也と誇る、其

のをこの國訛にや、百年といふが百年々々と聞ゆるもをかし

く今は名所となりぬ。

嗚呼なる哉、吾等晝寢してもあるべきを、かくてつれ／＼を

過すにこそ。

臺所より富士見ゆ。露の木槿ほの紅う、茅屋のあちこち黒

なかに、狐火かとばかり灯の色沈みて、池子の麓砦打つ折から、
いも妹がり行くらん遠畦の在郷唄、盆過ぎてよりあはれさ更にま
されり。

明治三十五年九月

青空文庫情報

底本：「鏡花全集 卷二十八」岩波書店

1942（昭和17）11月30日第1刷発行

1988（昭和63）12月2日第3刷発行

※題名の下にあった年代の注を、最後に移しました。

※底本は、物を数える際や地名などに用いる「ヶ」（区点番号5-86）を、大振りにつくっています。

入力：門田裕志

校正：米田進

2002年4月24日作成

2012年12月7日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

豆子だより

泉鏡花

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>